

# 御 挨 拶

木 田 英\*

この度藤永先生をはじめ理事の皆様のご推薦により理事長に就任する事となりました。この上は当研究所の素晴らしい歴史と伝統を受け継ぎ発展させていく事に微力を尽くしたいと存じております。

門外漢の私がこの大役をお引受けする決心をしたのは二つの理由からであります。一つは現在の世界が抱えている深刻な環境問題であります。この問題を科学的に解明する環境化学の非常に重要な一翼を担っているのが当研究所であるという認識であります。そしてそこから出てくる使命感であります。もう一つは私の職歴にかかわるものであります。わたしはもともと銀行員であります。縁あって造船と海運の経営に十年以上携わって参りました。何れも海水海洋を無視しては成り立たない産業であります。私が海洋化学に強い関心を寄せる様になったのはごく自然の成行きであり、当研究所との関わりもここから生まれた次第であります。研究は真理の追及であり、実益優先に害されて、方向を見失ってはならないことは申す迄もありません。併し他方、研究の為の研究に終るのもどうかと思います。時間はかかっても何れ社会に認められ、実益を生み出せる様な研究が望まれるのではないかと思います。そしてそれこそが当研究所の存在感を高め、幅広い発展を遂げる道ではないかと考えております。この点については今後機会ある毎に皆様と意見交換をして行きたいと存じております。

さて皆様、啐啄という言葉をご存知だと思います。卵からかえろうとするヒナが中からつつくのが啐で、親が外からつつくのが啄というのだそうです。これは親子の愛情を表す言葉ですが、当財団の運営にそのまま当てはまる様に思います。新しい真理を研究し、世に問う為に皆様が日夜研鑽を積まれる、それに外からソツと手を副える啄の役割を果たせたらと念願しております。

---

\* (財) 海洋化学研究所 理事長